『 心の声を聞く 』

私は、普段香りを通して自然界と会話をしています。生まれたその日から一生掛けて「聞香」ということをしていく。そんなことを550年も続けているなんて不思議な家ですね。東南アジアの山奥で育った”沈水香木”と呼ばれる自然界の恵みと向き合い、心静かに彼らの声を聞く。ソクラテスやプラトンとチャットはできなくても、100年以上太陽や雨、大地のエネルギーを吸い取った彼らの体からじわり滲み出てくる香りには多くのメッセージが含まれていて、未熟な自分がこの世でどう生きていくか、その道筋をメンターのように確かに示してくれます。

私は木だけでなく、幼少期からたくさんの動物に囲まれ育ってきました。ウサギのピョン吉、シェトランドシープドッグのハッチ、ゴールデンレトリーバーのペトロとモモ。モモは9匹も子どもを産みましたが、弟と協力しながら臍の緒を切り、呼吸が止まっていた

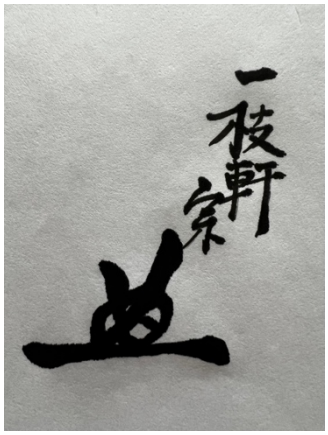
子は人工呼吸と心臓マッサージで呼び起こし、みんな元気に巣立っていきました。彼女は最後は癌になり手術もできない状態で辛い日々を過ごしていましたが、ある日、虫の知らせで急遽東京から名古屋に戻り一晩中傍にいると、私たちが使っている言語ではないですが、「もうそろそろ行くね」と私に伝え、あの世に旅立ちました。思えば、心の在り方や死生観について、本当に多くのことをみんなから教わりました。

人間は深い悲しみの淵から這い上がった時に、”心的外傷後成長”と言って大きく成長したりしますが、芳香を漂わせてくれる香木も、沈丁花科の木が怪我をしたり、病気にかかった子がその傷を治そう、癒そうとする過程でできる自然界の治癒力の塊であって、実は健康な木にはできません。私たち人間だけでなく動物や植物も、生まれた時と今、そして10年後は果たして同じ”自分”なのかは、容姿だけでなく細胞も入れ替わったりして色々な捉え方ができますが、みんな生きていく中で心は大きく変容していく。特に人間の心の成長には、動物や植物の影響が深く関わっているのではないでしょうか。

香道のお手前をする時は一つひとつの所作に心を込めます。そんな時は、その思いが香木に伝わりいつも以上に優しい香気を立たせてくれますが、気を抜いて他ごとを考えているとそれも香木は気付いて、あまり良い香りを発してくれません。この家業をしていると、自然界との繋がり、”気”をよく感じますから、彼らが語り掛けてくる何かしらのメッセー

ジに常に心を傾けております。私たちが抱えている動物との関わりに関する問題点を人間同士、机上で論じるばかりでなく、シンプルに私たちの心を犬や猫、木や花に直接向け、もっと彼らから話を聞けるようになったら良いなと思います。

26 歳の時、脳腫瘍になり生死の境を彷徨いました。皮肉なことですが、その経験が生とは何か、死とは何か、命の大切さを考える切っ掛けとなりました。この数年、定期的に幼稚園に行き、「お花を踏みつけたら痛いと言うよ。優しい言葉をかけてあげるとすごく喜ぶよ」と、目には見えないけど心や思いが大事なことを、自分の経験をもとに話をしています。少し長い計画になりますが、殺処分ゼロは、法律や条例を軸にして目指すのではなく、この子たちが大人になった時、誰かに言われてから思考せずに、自分たちの心根に宿る愛情を以って、自発的にゼロの世の中にしているのが良いと思います。もちろん人間の身勝手な理由で殺される犬猫は今日この日をもって全てなくなるべきだと思っています。ですが、愚かな私たちはそれを止めることがいつまでもできない。こんなことを言っている今日もどれだけの罪のない犬猫が殺されているのか。30 年後には日本という国で一番大切にされるものが、命や愛、心や魂になっていると本気でそういう日が来ることを思いながら、今日も自然界と会話を続けます。

香道志野流 二十一世家元継承者

蜂谷　宗苾